

バッティングの技能と守備側の判断を易しくしたゲーム(中学年)

先回りベースボール I

(引用)学校体育実技指導資料 第8集 ゲーム及びボール運動 平成22年3月文部科学省 東洋館出版社

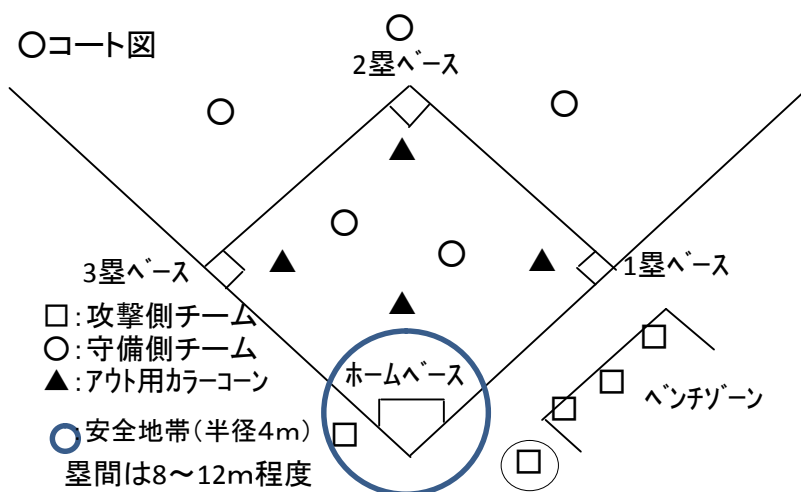
○教材の特長

- ・ベースボール型のゲームでは、攻撃側の走塁(進塁)が早いのか、走塁を防ぐ守備側の協力したプレーが早いのかの競い合いが児童の学習課題になるように工夫する必要があります。
- ・そこで、下図のようにアウト用のカラーコーンを各塁近くに設置することで、守備側の課題となるアウトを取るための判断や協力したプレーができるようにしています。
- ・また、攻撃の仕方を易くするために、バットのかわりにラケットなどを使って、斜め前方から投げた味方のボールを打つようにします。



味方チームがピッチャーになり、安全のため斜め前方から打ちやすいボールを投げるようにします。

バッターはボールをよく見てラケットを振り抜き、安全のために打ち終わった後にラケットを放り投げないようにすることが大切です。



○準備物

- ・硬式テニスボールのようなゴム製のボール
- ・ラケット
- ・アウト用のカラーコーン 4個
- ・ベース4枚(ない場合は、ラインカーで書いてもよい)
- ・得点板など

○ルール

- ・5人对5人でゲームを行い、守るときの内野・外野の守備位置はチームで工夫します。
- ・両チームが2回攻撃したら、ゲーム終了とします。
- ・打者走者はアウトになるまでダイヤモンド上を1塁からホームベースを目指して全力で走り、ベースを1つ踏むごとに1点とします。さらには、ホームまでにアウトにならないければ、2周目を走ってもかまいません。チーム全員のベースを踏んだ数を総得点とし、攻撃側の全員が打ち終われば、攻守交代します。
- ・打たれたボールを守備側が捕球し、打者走者よりも先回りした塁の近くに置かれたアウト用カラーコーンに全員が集まることによって、アウトを取ることができます。その際、全員が輪になって手をつないでコーンを囲み、「アウト」と言ってしゃがみます。
- ・塁審は打者や走者が塁に着くときには「セーフ」と声を出し、「アウト」「セーフ」のどちらの声が早いかで判定するとよいでしょう。
- ・フライを直接捕球した場合も、同様に先回りしてアウトを取るようにします。



打者走者よりも先回りして、その塁の近くのアウト用カラーコーンに全員が集まれば、アウトにできます。

○指導上のポイント

- ・ベンチゾーンを作り、ラケットやボールが当たらないように安全面への配慮をする必要があります。その際、待っている攻撃側のチームは、ベンチゾーンで得点を数える役割をしていくとよいでしょう。また、半径4m程度の安全地帯を設け、その中には打者だけが入ることができるようにしましょう。
- ・学習が進んだ段階で、攻撃側のバッティングの技能が向上し、外野を抜けるボールが多くなった場合には、守備側の3人が集まればアウトを取れるようにするなどルールを発展させ、送球するプレイや攻め方、守り方の工夫ができるようにしていきましょう。
- ・フライを直接捕球した場合、アウト用コーンに集まらなくてもアウトにするというように、子どもと話し合いながら、子どもの願いに応じてルールの工夫をしていくとよいでしょう。
- ・「どこに集まればアウトを取れるか、声をかけ合って動こう。」などと助言し、守備側がアウトを取るための判断や協力したプレーができるようにしていきましょう。
- ・判定や得点は、審判チームをつくり塁審をしたり、得点を数えたりする役割を与えていくとよいでしょう。審判チームをつくれないう場合はセルフジャッジとし、判定に迷った場合は両チームのじゃんけんによって決めてもよいでしょう。
- ・上記のように、守備側の打者走者を先回りしてアウトにできる塁はどこかを判断し、協力して進塁を阻止するなど「どこでアウトにするのか」についての判断に応じたプレーが、高学年への発展につながっていきます。